
黒ノ華ハ永遠ニ咲キ誇ル

紫華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒ノ華ハ永遠ニ咲キ誇ル

【Nコード】

N8502P

【作者名】

紫華

【あらすじ】

黒ノ国の王女の初めての恋は決して叶うことのないものだった。

有名な悪ノP様の「悪ノ娘」、「悪ノ召使」、「白ノ娘」のパロです。

庭球キャラでやってみました。

女体化してます。

配役力オスです。

途中から原曲無視です。

むしろギャグチックです。

以上が許せないという方は急いで逃げてください。

最初の『設定』にはネタバレもございしますので、嫌な方は飛ばして『ぜろ』からお読みください。

設定

†黒ノ国†

広大な土地を持つ国。

『三大国』のひとつ。

様々な人種が暮らしている。

黒魔術を使える人が何故が多い。

†精市†

黒ノ国の王女。

容姿端麗、才色兼備な非の打ち所のない少女。

黒魔術の天才。

黒い。

たまに病弱。

↑

周助大好き。

銀ノ国の第2王子に恋をする。

†周助†

黒ノ国の王女付きの召使い。

実は精市の双子の弟。

容姿端麗、文武両道の少年。

精市には劣るが、素晴らしい黒魔術の使い手。
黒い。

精市大好き。

赤ノ国の町娘ブン太に一目惚れする。

† 虎次郎 †

黒ノ国の有力な公爵家の長男。

周助の義兄。

無駄に男前。

やはり黒い。

国内で五本の指に入るほどの黒魔術の使い手。

† 銀ノ国 †

世界最強の軍隊を持っているといわれる国。

『三大国』のひとつ。

国民は基本的には銀色の髪をしている。

†雅治†

銀ノ国の第2王子。

容姿端麗、才色兼備、文武両道 e t c ……

とりあえずすごい奴。

作者の贔屓を一身に受けている。

赤ノ国の町娘ブン太に恋をする。

†仁†

銀ノ国の第1王子。

なんでもできるが強面。

でも本当は心優しい。

†長太郎†

銀ノ国の第3王子にして次期国王。

背が高い。

黒魔術が使える。

黒い。

† 赤ノ国 †

料理大国。

『三大国』のひとつ。

国民は基本的には赤色の髪をしている。

† ブン太 †

赤ノ国に住む普通の少女。

とはいってもやっぱり容姿端麗。

料理がとても上手い。

銀ノ国の第2王子とは知らず、雅治に恋をする。

† 岳人 †

赤ノ国の王女。

脱走とアクロバティックが得意技。

ブン太の親友その1。

他国に好きな人がいるらしい。

† 赤也 †

赤ノ国に生まれたが、髪が赤ノ国では不吉だといわれる黒色の癖毛であつたため忌み嫌われている少女。
家族を早くに亡くす。
ブン太の親友その2。
こちらも他国に好きな人がいるらしい。

以上が基本的な設定です。

原曲でいうと、

精市〃リン

周助〃レン

虎次郎〃メイコ（っぽい？）

ブン太〃ミク

赤也〃ハク

雅治〃カイト

な感じです。

ぜろ

昔々ある所に黒ノ国という国がありました。

その国で頂点に君臨するのはとても美しい王女様。
名前を精市といいました。

精市王女には双子の弟がいました。
名前を周助といいました。

しかし、2人が姉弟として育てられることはありませんでした。

時は2人が生まれた日に遡ります。

おぎゃー、おぎゃー。

その晩王宮に赤子の泣き声が響き渡りました。
黒ノ国の女王の子どもが生まれたのです。

「女王様、お生まれになりましたよー!!」

侍女が嬉しそうに声をあげます。

が、その声は途中で驚きの声に変わってしまうのでした。

「なっ?! 男女の双子の御子でございますー!!」

双子。

それは黒ノ国では忌み嫌われていました。

その理由は今では定かではありません。

一説によると、双子が反乱を起こし王家が滅亡してしまうところであつた、などと言われています。

しかし、真実は何も伝わってはいません。

とにかく、黒ノ国では双子は悪だったのです。

まだ目も開かぬ我が子たち。

藍色の髪の子。

茶色の髪の子。

黒ノ国では男女にかかわらず、第1子が王位を継ぐと決められています。

嗚呼、双子でさえなかったならば。

女王は嘆き悲しんだといわれています。
そして苦渋の決断を下しました。

「弟を殺さない。」

いち

弟王子を殺すように命じられた年老いた男には娘がいました。娘は既に嫁いでいましたが、子どもができませんでした。

いくら女王陛下の御命令とはいえ、赤子を殺すのは忍びない。いつそのこと、何年も子どもができず悲しんでいる娘の子として育てしまうのはどうだろうか。

そう思った男は娘の元へと赤子を連れて行き、誰にもその出自を語ることなく三年後に亡くなりました。

「母上！！新しい術を覚えたの。」

死を免れた弟は周助と名付けられ、優しい両親の元ですくすくと育ちました。

父は黒ノ国の公爵。

ある日、父は周助に告げました。

「王女様に会ってみないか。」

と。

周助はとてもわくわくしていました。

王女様といえば、とても有名ではありませんか。

とても整った容姿に澄んだ声。

何よりも国一番の黒魔術の使い手です。

胸を弾ませながら周助は城にアガりました。

精市、周助が5歳の春のことでした。

「王女殿下。こちらは私の息子の周助でございます。」

頭を下げ跪く父の真似をして周助も同じ格好をします。

「あたまをおあげなさい。」

聞こえてきた声は、とても可愛らしい鈴のような声です。その言葉に従い、周助は顔を上げ、王女の顔を見ました。

その途端、周助の体を電撃が走ります。
頬を涙が伝いました。

王女も涙を流しています。

（ああ、やっと会えた。かけがえのない大切な半身！！）

王女は周助に駆け寄り、抱きつきました。

周助もやっと再会できた大切な半身をしっかりと抱きしめました。

周助の父や、周りの大人たちは何もわかっていませんでしたが、二人は何も言いませんでした。

だって、せっかく会えた半身とまた引き離されたくはないのですから。

その日から周助は王女付きの召使いとなり、王女と共に成長していくのでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8502p/>

黒ノ華八永遠二咲キ誇ル

2011年1月8日23時03分発行